平成２３年度第２回宗像市幼児教育審議会

議　事　録

期　日：平成２４年２月１４日（火）
時　間：１９：００～２１：００
会　場：宗像市役所２０１会議室

審議会委員					
田中　敏明	○	村田　昭孝	欠	納富　恵子	○
吉田　靖生	○	原田　勝子	○	内田　龍男	○
髙杉　洋史	○	堤　智行	○	松浦　幸恵	○
加藤　賢一	欠				

事務局			
柴田　祐治	中野　万由美	髙橋　知子	冷牟田　俊彦

配布資料
- 平成 23 年度第 2 回宗像市幼児教育審議会次第
- 平成 23 年度第 1 回宗像市幼児教育審議会議事録
- 宗像市幼児教育振興プログラム（案）
- 宗像市幼児教育振興プログラム（改訂分）の具体的施策について（案）
- 子育ち・親育ち・家族育ちのための１１の提言
- 宗像市幼児教育審議会委員名簿及び審議経過
- 宗像市幼児教育振興プログラムの策定について（答申）（案）

１．会長挨拶
- 田中　敏明　会長

２．平成 23 年度第 1 回審議会の議事録の確認
- 承認

３．議事
（１）宗像市幼児教育振興プログラムの策定について
- 事務局より現在までの経過を説明

→平成 23 年度第 1 回宗像市幼児教育審議会において、平成 24 年度から平成 28 年度までを実施期間とする、宗像市幼児教育振興プログラムの策定を諮問。

平成23年12月1日から平成24年1月5日までパブリックコメントを実施したが、意見は1件もなかった。

- だいたい意見はないものか。
  →案件によって異なる。専門性の高い内容であったということもある。
- 宗像市以外の二つの市でプログラムの策定に関わったが、どこも意見がない。
- 「１１の提言」の内容は変更しないのか。見直した方が良いと感じる箇所もある。
  →子育て支援のさまざまな場面で活用している。現状を踏まえて、変更していくことも必要であると考えている。

（２）宗像市幼児教育振興プログラムの具体的施策について

- 事務局より、プログラムの具体的施策について説明
- 具体的施策は、プログラムの中に含めるのか
  →プログラムは指針であるので、具体的施策については、プログラムとは別に年次計画を立て進行管理していく。
- 他市で、保幼小の交流を今から進めようというところがある。プラス面の効果はあるかもしれないが、現場はとても忙しい状況がある。効果とその大変さを考えた場合、やらない方がいいとの意見も強かった。
- 宗像市は特に発達支援センターが頑張っていて、コーディネーター研修で主任レベルが意見交換ができるところなどが、他市より良いところと思う。しかし、コーディネーターでない一般の先生は連携の余裕がない。
- 気になる子どもたちの方に時間をとられるが、宗像市では発達支援センターが巡回相談などで支援してくれたり、今年度から、発達障がい等対策支援の補助も開始された。ここ数年で、良くなったところも多いが、それよりも早いスピードで家庭崩壊が増えていて、保育園は特にその対応に追われている。
- 子どもの保育の質を高めるため、研修は繰り返しやらないと効果が少ないが、市の予算の問題もある。もっと福岡教育大学を活用してはどうか。また、教育大学の主催ではないが、九州保育研究会では、月１回の定例研究会を行っていて、保育現場で気になる子どもと親の対応などについては繰り返しテーマで取り上げている。こういうものを活用すれば効果があると思う。
- 福岡教育大学と市の発達支援センターの連携はうまくいっている。市では支援センターの職員に専門の資格を取らせ、その職員が保育所・幼稚園をサポートしながら現場が自分たちの力で実践し成果が出せるようになってきている。学校教育の指導主事のように園を支援する仕組みができている。このような仕組みを、幼児教育の中でも作れると良いと思う。
- 小中学校は公立なので市が支援しやすい。市の保育所・幼稚園は私立であるため、指導主事を置いても指導しにくいのではないか。発達支援は公立私立に関係なく入りやすい。

- 今年度の市主催の保育所・幼稚園職員研修は、宗像市の小中一貫の説明があり、市の教育の情報を提供してもらったので良かった。保育所・幼稚園の問題点や小一プロブレムがなぜ起きるのかなどの情報を小中学校にも伝えたいが、時間とチャンスがない。
- 保育所・幼稚園で育てた園児を、小学校では赤ちゃん扱いするところがある。保幼小が話し合って接続の部分をどのような指導をしていけばいいのかを考えることが大切である。
- 小学校の先生は園児がもっと出来るということを知る必要がある。
- 保育所は、交通手段の問題がある。市の「ふれあいバス」が使えるようにするなどして物理的に行きやすくすれば、小学校との交流の機会を増やせる。また、職員の交流は、宿泊研修でお互いが本音の部分で話し合うと仲良くなり効果があると思う。あそびの研修など、現場に近い内容にすると園からも出しやすい。
- 保育所・幼稚園の先生がストレスをためると、良い保育・教育は出来ない。教育・福祉に関わる人は対人援助サービスなので、気づかない内に我慢したり悩んだりしている。台湾ではホテルなどで学びながらリラックスを行い人間性を回復するという形での研修があるらしい。そういう観点での研修も考えてみてはどうか。
- 子育て支援の現場でも、子どもを託児で預かってお母さん達のストレスを解消させることで、子どもに良い影響を与えるということがようやく認められてきた。
- 志の高い先生が、だんだん追い詰められて辞めていく現状がある。
- 今年度、県が指定した宮若市と大川市では、保幼小連携のカリキュラムの作成などに取り組んでいる。こういう取り組みを参考にし活用すると最初から作成しなくていいので効率的に進む。
- 最近見た小学校の教室では、落ち着きのない児童が増えてきている。親の行動もおかしいと感じることがある。親も育てないといけないと感じる。
- 宗像市だけでなくどこの地域も園によって特徴がある。本音で小学校側がここはこうしてほしいと言い合えるような関係づくりが大切である。
- 引き継ぎをしっかりと行うと小学校も助かるので、県が作成している「ふくおか就学サポートノート」は接続の支援として活用できるのではないか。
- 保育所では学校の日などを活用し、入学後の卒園児の時の様子を見に行っている。これは、小学校に行ける体制、連携が出来ているから出来るもの。市が入らなくても、各園が自発的にどんどん連携を進めていけるような状態になると良い。
- 小学校の先生も保育所・幼稚園の環境を見ていないと、話が合わないと思う。お互いに行って、話をしながらの接点が必要である。
- 宗像市は保幼小にコーディネーターがいて、管理職とコーディネーターに引き継ぐ仕組みができており、県内の中でも進んでいる。交流に関して、一緒の行事し授業を見合う。先に顔を覚えていると、子どもの情報も非常にうまく伝わるようになるので、人と人が出会う場の設定が大切である。

- 欧米並みに離婚の割合が増えている。家庭を出来るだけ大切にするのが一番の近道と思う。そういうことも含めて、宗像市には子どもの基本条例が出来た。
- うちの保育園では、コーディネーターとして 2 人が、シフトを組んで関わっているが内容が深刻で時間的に厳しい。専属のコーディネーターが欲しい。
- 本当に必要なものは、保育所連盟から国へ働きかけていかないと難しい。
- 宗像市が交付する障がいに関する補助金での加配により、コーディネーターの負担が減るといい。
- 良い保育・教育するためには、園に入る段階で必要に応じて専門の先生につなぐことが重要である。
- 保育所入所後に関わりながら気づくのが現状。入所時の、園長面接で気づくこともあるが、あくまで、配慮が必要かなと思える程度である。
- 親の子どもに対するネグレクトやしつけなど家庭的に難しい問題も多々ある。
- 米国では、障がいと関係なく親のニーズなどで、個別の家族サービス計画を立て支援する制度（IFSP）がある。困っている状況が認められれば公的な基金が下りてくる。
- モンスターペアレンツに対応する保育所・幼稚園の先生は、かなり辛く、対応時間も多くかかっている。
- モンスターペアレンツの問題は、様子を見ながら、状況によってはプログラムの新たな一つの施策として入れていかなくてはいけない。
- 子育て支援センターが、保育所・幼稚園、各地域にあるという感覚で地域も含め支援できる体制づくりが出来たら一番良い。保育所・幼稚園だけに任せず、地域の力を活かしていくことが必要。

4．その他

答申（案）について承認。2 月 23 日（木）答申予定。